

令和5年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査の概要

秩父市教育委員会 教育研究所

小学校

【児童質問紙】

- 学校以外での学習の時間について、平日では「1時間より少ない」が、休日では「まったくしない」児童の割合が県・全国よりも低い。
- 国語の「文章で書く問題」を最後まで回答を書こうと努力した割合が県・全国よりも高い。
- ▼授業でのPC、タブレット等のICT機器を「ほぼ毎日」使用した児童の割合が県・全国よりも低い。
- ▼国語・算数の授業が好きだという児童の割合が県・全国よりも低い。

【学校質問紙】

- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている・最後まで話を聞くことができる児童の割合が高い。
- 具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行った割合が高い。
- ▼児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を「よく行った」の割合が低い。
- ▼言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として「よく取り組んだ」、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った割合が低い。

中学校

【生徒質問紙】

- 自然、地域の大人との交流、地域行事への参加といった項目の「よくある」割合が高い。
- 友達関係に満足しているという生徒の割合が県・全国よりも高い。
- ▼国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用している生徒の割合が低い。
- ▼スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動を行った生徒の割合が低い。

【学校質問紙】

- 言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる割合が高い。
- 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている割合が高い。
- ▼生徒が自分で調べる場面、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面等、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度の割合が、県・全国よりも低い。
- ▼生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動の割合が低い。